

# 10 思いやり



◇ 思いやりの心は、子どもの頃からの日常における実践を通して育まれます。

家族のやさしさや思いやりがあると、それが励ましになり、子どもにとっては勇気をもって問題を解決する力になるでしょう。そしてさらに、人々と思いやりをもって接する心を育み、人との友好的な関係を築く力を育むことにもつながるでしょう。

## 親が子どもを思いやる心

“子どもに対する思いやり、それは、子どものことをよく知ることです。”

- 子どもの話をよく聴きましょう。
- 子どもの中の世界がどんなものなのか、理解に努めましょう。
- たとえ自分の思う通りでなくても、その子の世界を受け入れましょう。

## 子どもが親を思いやる心

“子どもが親を思いやる心、それは、広く他者を思いやる心の基になります。”

- 親が、自らの親である祖父母を大切にすることを心がけましょう。
- バスや電車の中で、体の不自由な人や妊婦、高齢者に座席をゆずる姿や、困っている人に声をかける姿を、親が率先して見せましょう。



◇ いじめや差別は、人間として恥ずかしい行いです。

### いじめをしない子に育てる

いじめとは、児童等に対して、当該児童が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。〔鹿児島県いじめ防止対策推進法 第2条〕

いくら軽い遊びや悪ふざけ、ジョークのつもりでも、いじめられる側の苦しみ痛みは深刻であることを理解させ、いじめめることは、「人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり傍観したりすることも同じである」ということを、家族の中できちんと話し合ひましょう。

### 差別をしない子に育てる

親は、子どもがいじめに加わったり他人を差別し傷つけたりしていることに気づいたときには、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。その際、あれこれ言うより、子どもを愛していること、すてきな人に育ててほしいこと、弱い者をいじめたり差別したりするのを見てショックだったこと、二度としてほしくないことなど、親としての本当の気持ちを伝える努力をしましょう。

まず、親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということを、子どもたちに示していくことが大切です。

## 教えて！Q&A

Q いじめをしているわが子へ、親はどう対応したらよいのでしょうか？

A まずは、早急に担任の先生に相談しましょう。そして、家庭では、いくら軽い悪ふざけや冗談のつもりでも、いじめられる子どもの苦しみや痛みは深刻であることを理解させましょう。

いじめめることは、人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり傍観したりすることも同じであることを話し、すぐにいじめをやめるように諭しましょう。

〔鹿児島県PTA新聞 平成26年1月号より〕